

分野1 産業・仕事 一人ひとりが個性を活かし安心して働けるまち

〔各種統計・住民アンケート結果から見た特徴〕

- 第1次産業の就業者の6割以上が60歳以上で、高齢者による支えが顕著です。農業経営体数では個人経営体が274戸、団体経営体が11団体、法人経営体が6法人となっています。
- 「農林業の振興」に対する満足度が最も高い一方、「魅力ある働く場の創出」に対する不満が最も多く、同施策が最も重要と認識されており、若者や現役世代が定着できる産業基盤の整備が急務となっています。
- 織物業においては、人口1,000人あたり事業所数は全国2位、従業者数は全国1位で、名実ともに「織物の町」と言えます。

〔これまでの取組〕

- 商工会や中小企業・織物事業者など地域産業の担い手に対して補助金や技術支援を行い、企業立地の促進や販路拡大支援、町内産業に関する情報発信、企業間交流、インターンシップ支援などを実施しました。
- 新規就農者への支援や京の豆っこ米・酒米・ホップ・桜の葉などの特色ある作物や農作物のブランド化・高付加価値化に取り組む農業者・団体への栽培支援、ICT活用試験の実施し、環境保全型農業の推進に取り組みました。
- 森林整備や里山整備、林業従事者への支援などを実施し、地域の自然環境の保全と活用を進めるとともに、環境にやさしい農業の実現のためスマートグリーンビレッジ確立協議会を開催しました。

〔課題〕

- 「魅力ある働く場の創出」は住民にとって最も重要な課題とされている一方で、施策に対する満足度は最も低く、実効性ある取組の強化が求められています。
- 事業所数・従業者数の大幅な減少により、地域経済の縮小傾向が続いています。そういった中で、各産業が持続・発展していくためには、地域の特性や資源を活かした高付加価値型の地域経済を構築し、国内外の需要を取り込むことが求められています。
- 地域産業・中小企業においては、人材不足が深刻であり、学生と企業のマッチングイベントなどを実施しても雇用にはなかなか結びつかず、担い手確保のための継続的な取組や支援体制が求められています。
- 高齢化による離農や農地の空洞化が進む中、新たな担い手確保に向け受け皿に対する支援が必要です。
- 伐期を迎えた森林や手入れ不足の人工林への対応や、森林所有者に対して森林経営に関する調査を今後進めていく必要がありますが、担い手や専門人材が不足しています。

分野2 観光・交流・移住定住 地元を誇りに想い人の流れを生むまち

〔各種統計・住民アンケート結果から見た特徴〕

- 観光入込客数はコロナ禍前の水準に戻っていません。日帰り客が9割を占めるなど、短時間滞在型の観光が主流となっています。
- 与謝野町の良いところでは「自然の豊かさ」が71.3%と住民から高く評価されており、地域の魅力として根強い支持があります。
- 特に重要だと思う施策では「まちの魅力を活かした移住・定住の促進」が61.7%と最も高く、移住・定住への関心が継続して見られます。

〔これまでの取組〕

- 観光協会や海の京都DMOなどの団体への補助支援を行い、地域産業を体験・体感できる観光コンテンツの開発に取り組んだほか、地域・事業者・行政との協働による地域活性化、ふるさと納税を活用した特産品PRなどを通じて地域の魅力発信に取り組みました。
- 英国アベリスツイスとの高校生相互派遣、アベリスツイス友好協会による交流事業のほか、日中友好平和祈願祭への協力などを行い、地域の国際理解と文化交流の促進を図りました。
- 移住・定住サポート総合窓口の設置、空き家バンクの活用促進、移住者への住宅改修補助やお試し住宅の提供、子育て・新婚世帯への住居取得支援、分譲宅地購入者への補助などを通じて、移住希望者の受け入れ体制を強化しました。

〔課題〕

- 「まちの魅力を活かした観光振興」に対する不満が36.9%となっており、観光の質や満足度向上が課題となっています。
- 空き家数が721件と増加しており、移住・定住の促進と連動した住環境の整備や利活用が求められています。
- 冬季の閑散期対策や世界遺産登録推進事業の停滞が課題となっており、地域の観光資源を十分に活かすことができず、返礼品の拡充や魅力発信など広報戦略の強化が求められています。
- 国際連携事業への参加者確保が課題となっており、今後は外国人世帯への対応が課題となる可能性があるほか、地域・事業者・行政の協働による地域活性化の取組を継続していくことが必要です。
- 移住者向け広報の不足などにより、移住希望者の受け入れ体制が十分ではなく、「移住者に選ばれるまち」となるような体制整備と情報発信力の向上が必要となっています。

分野3 健康・福祉 みんなが自分らしく幸せに生きるまち

[各種統計・住民アンケート結果から見た特徴]

- 健康寿命(0歳平均自立期間)は男性が80.1歳、女性が83.8歳で、100歳以上の割合も多いなど、長寿社会が進展しています。
- 1,000人あたりの医療機関数では、与謝野町が1.4施設で府平均を若干下回っているものの府内では10位に位置しており、認知症サポーター数も年々増加するなど、地域で安心して暮らせる環境となっています。
- 「元気な体づくりの推進」の満足度は施策全体の中で2番目の22.1%、「生きがいを持って暮らせている」と感じる住民の割合が52.1%と、健康意識や生活の充実度が一定水準にあります。

[これまでの取組]

- 介護人材育成のための奨学金の設置や外国人職員を雇用する事業者への支援、ICT導入、福祉教育の推進に加え、障害者の就労支援や社会参加促進などに取り組みました。
- 民生委員・児童委員や関係機関と連携し、生活困窮者や孤独・孤立状態にある住民への相談支援や居場所づくりを進め、地域で孤立する人がないように支援体制の構築に取り組みました。
- 重度心身障害者への医療費助成を行いました。
- 医師・看護師確保奨学金制度の実施により医療人材の確保を行いました。
- 町民健診や人間ドックの実施、専門員による指導を通じて、住民の健康意識の向上と予防医療の推進に努めました。

[課題]

- 健康寿命(0歳平均自立期間)は男女ともに府平均と同程度であるものの、町民健診の受診や生活習慣改善など予防医療の強化が必要です。
- 独居高齢者世帯数は1,215世帯と多く、要介護認定率も高いため、見守りや介護支援体制の充実が必要です。
- 「誰もが安心していきいきと暮らし続けられる地域づくりの推進」に対する不満が23.7%で、重要度も高くなっており、持続可能な福祉サービス提供体制の構築や地域コミュニティのさらなる充実が求められています。
- 修学資金や外国人介護人材支援の制度周知、障害者雇用の企業への理解、ICT導入の費用対効果などが課題であり、広報強化、制度の見直し、事業者への理解促進が求められています。
- 民生児童委員の担い手不足や活動負担増加、認知症支援の周知、ひきこもり傾向者の実態把握の難しさなどが課題となっています。
- 重度心身障害者医療費支給制度の周知が不十分であり、対象者への丁寧な説明や広報が必要となっています。
- 研修医・医学生への奨学金申込者が近年ないことや看護師の人材不足解消のため、医師・看護師確保奨学金制度の条件変更など、制度の見直しが必要となっています。
- 健診受診率の低迷が課題であり、広報や通知方法による受診促進の工夫が必要となっています。

分野4 子ども・子育て つながり笑顔で未来につむぐまち

〔各種統計・住民アンケート結果から見た特徴〕

- 令和6年度の出生数は75人と、令和元年度からは約39%減少しており、少子化が進行しています。
- 人口1,000人あたりの認定こども園職員数は1.6人と府平均を上回り、令和7年度の保育利用率は87.7%と高く、待機児童ゼロを達成しているなど、保育環境は整備されています。
- 「新たな命の誕生を応援」の満足度は20.4%で、重要度は72.1%と最も高く、妊娠・出産支援に対する住民の期待が高くなっています。
- 20～40代の子育て世代では、「この地域で子育てをしたいと思う」が55.4%と、半数以上が与謝野町での子育てを望んでいます。

〔これまでの取組〕

- 妊娠期から出産・子育て期までの一体的な相談支援体制を構築し、保健師・助産師による面談や子育て支援センターの運営、小・中学校を通じた相談の継続を行い、親子の安心感の醸成と虐待防止に努めました。
- 離乳食教室や食育巡回事業、専門職による巡回相談、発達サポート事業などを通じて、子どもの健やかな成長と発達支援を推進し、保育現場や保護者への支援の充実を図りました。
- 認定こども園の整備や土曜保育の開始、学校長期期間中や下校後の見守り、キッズステーションの開設、ファミリーサポート事業の推進など、地域ぐるみで子育てする環境づくりに取り組みました。

〔課題〕

- 虐待ケース管理件数は115件となっており、家庭や地域での子どもの安全確保と支援体制の強化が必要です。
- 「新たな命の誕生を応援」に対する不満が22.6%と最も高く、妊娠から出産までの切れ目のない取組の強化が求められています。
- 出生数の減少が続いており、子育て支援だけでなく、若年層の定住促進やライフステージに応じた支援が求められています。
- 小児科医や看護師、助産師、歯科衛生士など専門職の人材確保や、育休代替職員の増加による人件費負担が課題となっており、年々複雑化する家族構成に対応した時代にあった子育て支援の構築が必要です。
- 子どもの心理発達について専門知識を有する相談員の人材が不足しているほか、子育て支援ノートを活用事業や食育事業の見直しなど、人材確保と事業の質向上が必要となっています。
- キッズステーション設置・未設置による地域格差、ファミリーサポート事業の担い手不足、子育て支援センターの将来的な集約化など、持続可能で公平な子育て環境の構築が必要となっています。

分野5 教育・スポーツ・文化 魅力ある教育が活力ある人や地域を創るまち

〔各種統計・住民アンケート結果から見た特徴〕

- 小学校児童数、中学校生徒数は年々減少しています。
- 令和6年度の生涯学習・公民館講座数は89講座、参加者数は3,388人と多く、文化協会や20地区公民館の活動も活発で、地域の学びや文化活動が根付いています。
- 教育・スポーツ・文化施策の重要度においては、「文化財の継承と活用」が49.9%と最も高く、地域の歴史・文化資源への関心が強いことがうかがえます。

〔これまでの取組〕

- 地域への愛着心や誇りを育むため特色ある学校づくり補助金を全小中学校に交付したほか、ICT活用や学力向上の取組、いじめ・学級満足度調査、教育支援センターの設置など、教育環境の充実を図りました。
- 生涯学習や人権教育、俳句大会、読書活動、スポーツイベントの支援など、地域住民の学びと交流の機会を広げるとともに、文化財の保存・情報発信を通じて地域の歴史と文化の継承にも力を入れました。
- 町内の全ての学区に学校運営協議会を設置し、地域人材による学習支援、小高英語交流、青少年育成団体への支援など、学校・家庭・地域が連携した体制を構築し、子どもたちの居場所づくりと健全育成を図りました。

〔課題〕

- 令和7年度の全国学力状況調査結果は、小中学校ともに京都府、全国平均を下回っており、学力向上への取組が課題となっています。
- 令和6年度の不登校者数は小学校で10人、中学校で48人と、中学校で特に多く、子ども一人ひとりの学ぶ意欲や居場所づくりへの支援が必要です。
- 「一人ひとりを大切に作る環境づくり」に対する不満が16.1%と比較的高く、教育の質と多様な学びの機会の充実が求められています。
- ICT活用や授業改善のための指導力向上、特別支援教育の人材育成、不登校支援の専門職配置などが課題となっており、多様な児童生徒への対応力の強化が必要となっています。
- 学校と地域の協働を進めるためのコーディネート機能の充実、講師や担い手の不足、少子化に伴う教育活動の継続的な見直しなど、地域社会全体で支える体制づくりが必要となっています。
- 施設の老朽化のほか、団体や人材の減少による伝統文化やイベントの継承が課題となっており、持続可能な活動基盤の整備と担い手の育成が急務となっています。

分野6 環境・暮らし 美しくて住みやすい安心安全なまち

〔各種統計・住民アンケート結果から見た特徴〕

- 令和5年度の再エネ導入率は6.6%で、持続可能なエネルギー利用に向けた取組が進められています。
- 自動車を持っている世帯は府平均の約2倍となっており、その影響もあり、公共交通を利用する人は少ない状況となっています。
- 全施策のうち、「安心安全に暮らせる地域づくり」への満足度が28.3%と最も高く、地域の安全面への評価が高くなっています。
- 約4割の住民が買い物など日常生活の利便性を望んでいる一方で、卸売業・小売業の事業所数は府平均を上回っており、地域の生活基盤は比較的整っています。

〔これまでの取組〕

- 太陽光発電や蓄電設備、薪ストーブの導入支援、家電買い替え補助などにより家庭の温暖化対策を推進したほか、不法投棄パトロールや阿蘇海の環境改善、生ごみ処理容器設置事業補助支援やリユース事業によるごみの減量化など、環境保全に取り組みました。
- 交通安全教室や防犯パトロール、老朽化した空家除却への補助支援、消費生活センターの運営など、安心・安全な暮らしを支える施策を展開したほか、水道料金の福祉減免制度の創設や乗合交通の導入など、住民生活の支援にも力を入れました。
- 老朽化した水道管や浄水施設の耐震化、下水道管渠の整備、消防車両の更新、応急給水設備の整備、町営住宅の長寿命化工事、街路灯のLED化、河川や雨水排水施設の改修など、災害に強い持続可能なインフラ整備に取り組みました。

〔課題〕

- 令和5年度の1人1日あたりのごみ排出量は872g/人日で府平均を上回っており、ごみの資源化意識を高める啓発や再活用できるリユース品の流通など、ごみ量の総量削減に向けた取組が必要となっています。
- 再生可能エネルギー制度等の変更に伴い、太陽光発電・蓄電池導入事業の継続に向けた補助金の見通しが不透明となっており、安定した財源の確保が必要となっています。
- 町内の地域公共交通の体系として、鉄道、路線バス、乗合交通を持続可能なものとするために、利用方法の周知や利用促進、利便性向上、交通事業者の運転士不足への対応が必要となっています。
- 空家の活用による老朽空家の未然防止、老朽空家の除却・解体に対する情報提供など老朽空家の減少に向けた対策が必要となっています。
- 近年、高齢者の行方不明者が亡くなるケースも出ており、地域での見守りなどの対策が必要となっています。
- 水道・雨水施設・橋りょう・道路施設の老朽化や災害リスクへの対応のため、役場職員確保と財源確保が必要となっています。

分野7 地域協働・行財政運営 住民が主人公となるまち

〔各種統計・住民アンケート結果から見た特徴〕

- 令和6年度決算における歳入総額は121億840万円、歳出総額は120億2,500万円で、収支はわずかに黒字となっていますが、経常収支比率は90.2%、財政力指数は0.277と、財政余力は十分でない状況です。
- 「よく使う32手続き」のオンライン化状況は43.8%となっており、府平均を下回っています。

〔これまでの取組〕

- 自治会やNPO、地域活動団体等への支援、住民参加型の意見交流会を通じて、地域と行政が連携したまちづくりを推進し、助け合い・支え合い活動、地域活性化の取組を進めました。
- 人権啓発活動、男女共同参画実現に向けた啓発や相談により、互いに認め合う風土づくりに取り組んだほか、多様性を尊重し合う共生社会づくり検討委員会を創設し、多様性を尊重し合う共生社会づくりの基本的な考え方および取組について検討を行いました。
- 令和5年度から住民票の写しと印鑑登録証明書のコンビニ交付を開始し、令和6年度にはデジタル社会に対応していくため「行政DX推進計画」を策定しました。
- 行政改革大綱に基づき、財政計画の策定・実行や公共施設の統廃合等の取組を進めました。
- 広報紙やSNS、町長記者会見など多様な手段で情報発信を強化し、住民との対話と参加を促進しました。

〔課題〕

- 電子申請の利便性(窓口不要・一括手続)への期待は高くなっていますが、実際の活用に結びついておらず、オンライン手続の満足度も25.4%にとどまり、「利用したことがない」が64.5%と高く、利用促進と周知が必要となっています。
- 人口減少や少子高齢化が進む中、多様な主体が協働する地域運営体制の構築と、地域活動団体等への支援制度の見直しが求められており、あわせて地域・行政双方の業務改善も重要な課題となっています。
- 財政力指数は低く、人件費の増や物価高騰など行政コストが増加する中で、財政収支の均衡を保つことが厳しい状況となっており、限られた行政資源の効率的・効果的な活用や、公共施設の統廃合・利活用を進めるなど、持続可能な運営体制を構築する必要があります。
- 広報・広聴においては、情報を届けたいターゲットに合わせた効果的なメディア媒体の選択や、様々なテーマで住民の声を直接聞く機会の設定と、その参加者の増加を図る必要があります。

第2次与謝野町総合計画・後期基本計画 評価・検証結果（成果指標・基本施策の目的の達成状況）

分野1 産業・仕事 一人ひとりが個性を活かし安心して働けるまち

基本施策	基本施策の目的					基本施策の目的の達成状況	達成度	今後の方向性
	基本施策の成果指標	基準値	目標値	実績値	達成度			
挑戦が生まれる風土づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな挑戦に意欲を持つ事業者や創業・起業に意欲を持つ住民を増やす ○ 事業者による新たな挑戦を応援する風土を醸成する 					飲食業を中心に多くの起業を支援し目標達成に進展がみられる一方で、新たな挑戦を促す事業者向け支援制度の内容や新たな事業者が生まれているが、施策の成果が認知されていない。	B おおむね達成できた	継続
	起業・第二創業・事業拡大・事業承継・新分野進出数[件]	3 (R4)	12 (R8)	11 (R6)	92%			
	挑戦しやすい環境であると感じる住民の割合[%]	10.1 (R8)	20.0 (R8)	6.8% (R7)	34%			
農林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基幹産業である農業を持続可能な産業にする ○ 農地・森林を保全する 					京の豆っこ肥料を中心とした環境保全型農業や、農作物のブランド・高付加価値化に対する支援により農業産出額が上昇傾向にあるほか、ホップ・食用桜などを活用した観光コンテンツの創出も進みつつあり、農業の多面的な価値の発信にもつながっている。また、資材・燃料高騰下においても離農の発生は見られず、農振農用地面積、耕作面積、森林面積は維持できている。	B おおむね達成できた	継続
	農業算出額[万円]	119,000 (R2)	131,000 (R8)	124,000 (R6)	95%			
	農振農用地面積[ha]	775 (R4)	775 (R8)	775 (R6)	100%			
	森林面積[ha]	8,149.47 (R3)	8,149.47 (R8)	8,149.47 (R6)	100%			

第2次与謝野町総合計画・後期基本計画 評価・検証結果（成果指標・基本施策の目的の達成状況）

基本施策	基本施策の目的					基本施策の目的の達成状況	達成度	今後の方向性
	基本施策の成果指標	基準値	目標値	実績値	達成度			
織物業の振興	○ 地域固有の産業である織物業を持続可能な産業にする					織機等の生産設備の新設・増設・改修に対して支援を行うことにより生産量の維持や織物事業者数の維持に繋がっているが、内製化は進んでいない。また、当町専門職員による織物事業者の従業員を対象とした技術指導を実施することにより、将来の担い手を確保できた。	B おおむね達成できた	継続
	繊維工業製造品出荷額 [万円]	175,749 (R3)	203,741 (R8)	未発表 (R6)	—			
	繊維工業付加価値額 [万円]	76,489 (R3)	88,672 (R8)	未発表 (R6)	—			
	内製化の取組状況 [件]	— (R4)	52 (R8)	0 (R6)	0%			
商工業の振興	○ 域内経済の活性化を図る ○ 町内での消費行動を取る住民を増やす					事業所数の減少等の影響を受け町内総生産額は減少傾向にある一方で、プレミアム商品券事業を実施することにより町内の経済循環と意識醸成を図ることができた。	B おおむね達成できた	継続
	町内総生産額 [円]	5,495,200 (R1)	6,184,900 (R5)	5,180,900 (R6)	84%			
	地域内経済循環を意識している 住民の割合[%]	— (R4)	30.0 (R8)	56.7 (R7)	189%			
魅力ある働く場の創出	○ 時代に応じた多様な働き方ができる魅力的な働く場を増やす					町独自では初となるインターネット事前セミナーやマッチング交流イベントを開催し、人材不足の解消や、経営者が魅力ある職場を考える機会を創出したが、住民の満足度向上にはつながっていない。	B おおむね達成できた	継続
	魅力ある働く場がある (魅力ある職場で働いている) と感じる住民の割合[%]	4.7 (R4)	10.0 (R8)	3.3 (R7)	33%			

第2次与謝野町総合計画・後期基本計画 評価・検証結果（成果指標・基本施策の目的の達成状況）

分野2 観光・交流・移住定住 地元を誇りに想い人の流れを生むまち

基本施策	基本施策の目的					基本施策の目的の達成状況	達成度	今後の方向性
	基本施策の成果指標	基準値	目標値	実績値	達成度			
ファンづくりの推進	○ まちの魅力を知り、誇りに思う住民を増やす					出前教室や体験講座などを通じ、郷土愛を育むふるさと教育を推進したほか、合併20周年記念フラッグシップアクションにより、地域の魅力を発見・再認識する機会を創出し成果は得られているものの、目標達成につなげられていない。	B おおむね達成できた	拡充
	与謝野町が好きな住民の割合[%]	71.4 (R4)	75.0 (R8)	67.3 (R7)	90%			
まちの魅力を活かした観光振興	○ 交流人口を増やす					観光協会と連携し、各観光施設や地域資源を活用したイベント等や観光コンテンツの開発を実施しているが、観光入込客数、一人あたり消費単価、宿泊単価は基準年と横ばいで進捗しているが、コロナ禍前まで回復していない。	C あまり達成できなかった	継続
	観光入込客数 [千人/年]	332 (R4)	461 (R8)	305 (R6)	66%			
	観光消費額 [億円/年]	4.8 (R4)	6.8 (R8)	4.8 (R6)	71%			
まちの魅力を活かした移住・定住の促進	○ 移住者を増やす					移住相談窓口の設置や空き家バンクの活用促進、移住者への各種補助制度の充実を図り、移住希望者の受け入れ体制を強化したことにより、R6年度には過去最高の移住者数・世帯数となり、目標達成に向けて進展している。	A 達成できた	拡充
	移住者数 [人/3ヵ年平均]	20 (H30)	30 (R8)	35 (R6)	116%			

第2次与謝野町総合計画・後期基本計画 評価・検証結果（成果指標・基本施策の目的の達成状況）

分野3 健康・福祉 みんなが自分らしく幸せに生きるまち

基本施策	基本施策の目的					基本施策の目的の達成状況	達成度	今後の方向性
	基本施策の成果指標	基準値	目標値	実績値	達成度			
健康・福祉を支える人財の育成と確保	○ 保健・医療・福祉サービスに関わる人財を確保する					修学資金の貸付制度や外国人材確保のための住宅費補助、福祉ボランティアの育成・活動支援のほか、人材不足やサービスの質向上への新たな対応として福祉施設におけるICT導入支援に取り組んだことにより、従事者不足数は横ばいで推移しており、医療機関数も維持できている。	B おおむね達成できた	継続
	福祉サービス従事者不足数	31 (H30)	24 (R8)	31 (R6)	0%			
	医療機関数 [機関]	22 (R4)	22 (R8)	22 (R6)	100%			
元気な体づくりの推進	○ 住民の健康寿命を伸ばす					町民健診・人間ドック・精密検査受診率向上の取組や、健康づくり・生活習慣改善事業、地域ボランティアによる食生活改善活動等によって、着実に健康寿命の延伸・維持につながられている。	B おおむね達成できた	継続
	健康寿命 (平均自立期間) [歳]	男性 79.5 女性 83.6 (R2)	男性 81.0 女性 85.0 (R8)	男性 80.1 女性 83.8 (R6)	男性 99% 女性 99%			

第2次与謝野町総合計画・後期基本計画 評価・検証結果（成果指標・基本施策の目的の達成状況）

基本施策	基本施策の目的					基本施策の目的の達成状況	達成度	今後の方向性
	基本施策の成果指標	基準値	目標値	実績値	達成度			
誰もが安心していきいきと暮らし続けられる地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不安を抱えて暮らす住民を減らす ○ 生きがいを持って暮らす住民を増やす 					民生児童委員や社会福祉協議会、関係機関等と連携し、福祉に関する様々な相談体制や制度の充実を図り、地域で安心して暮らせる環境整備を進めているものの、住民の満足度は高まっていない。	B おおむね達成できた	継続
	心のよりどころがあると感じる住民の割合[%]	22.3 (R4)	25.0 (R8)	18.1 (R7)	72%			
	生きがいを持って暮らせると感じる住民の割合[%]	20.1 (R4)	25.0 (R8)	18.1 (R7)	72%			

第2次与謝野町総合計画・後期基本計画 評価・検証結果（成果指標・基本施策の目的の達成状況）

分野4 子ども・子育て つながり笑顔で未来につむぐまち

基本施策	基本施策の目的					基本施策の目的の達成状況	達成度	今後の方向性
	基本施策の成果指標	基準値	目標値	実績値	達成度			
新たな命の誕生を応援	○ 安心して妊娠・出産ができると思う住民を増やす					子育て応援課内に設置しているこども家庭センターが中心となり実施する、妊娠期から乳幼児期にかけて切れ目のない発達支援は、事業利用者から高い評価を得ており、目標達成に向けて進展が見られる。	B おおむね達成できた	継続
	妊娠・出産施策に満足している親の割合 [%]	92.5 (R3)	95.0 (R8)	87.7 (R6)	92%			
親子の笑顔の暮らしを応援	○ この地域で子育てをしたいと思う住民を増やす					待機児童ゼロの保育・教育環境を提供しているほか、町内（公立・私立）の全保育士を対象に研修会を実施し保育の質向上に努めた。また、年々増加する相談に対して、子育て支援センターが不安の解消に寄与しており、目標をほぼ達成できている。	B おおむね達成できた	継続
	この地域で子育てをしたいと思う親の割合 [%]	94.6 (R3)	95.0 (R8)	95.4 (R6)	100%			
	乳幼児健診受診率 [%]	99.4 (R3)	100.0 (R8)	99.3 (R6)	99%			
地域ぐるみの子育て力の向上	○ 地域主体で展開する子育てサービスを増やす ○ 地域ぐるみで子育てをする意識を醸成する					地域が担い手となって進めるキッズステーションやファミリーサポート事業は、安心・安全なこどもの居場所づくりや新たな子育て支援サービスとして年々拡充しており、目標達成に向けて進展が見られる。	B おおむね達成できた	継続
	地域主体で展開する子育てサービス数 [件]	6 (R4)	9 (R8)	7 (R6)	78%			

第2次与謝野町総合計画・後期基本計画 評価・検証結果（成果指標・基本施策の目的の達成状況）

分野5 教育・スポーツ・文化 魅力ある教育が活力ある人や地域を創るまち

基本施策	基本施策の目的					基本施策の目的の達成状況	達成度	今後の方向性
	基本施策の成果指標	基準値	目標値	実績値	達成度			
一人ひとりの学ぶ意欲と確かな学力の育成	○ 主体的に学び、考え、時代に必要とされる学力を身に付けた児童生徒を育成する					目標は未達成であるが、ふるさと学習により与謝野町を大切に思う心を育み、誇りと愛着を持たせることができた。また、学習診断・学級満足度調査の分析やICT環境整備を行うことにより、より質の高い授業づくりに取り組むことができたほか、ALT配置により英語教育の向上を図ることができた。	B おおむね達成できた	継続
	標準学力検査(CRT)平均得点率[%]	全国平均以上(R4)	全国平均以上(R8)	全国平均以下(R6)	未達成			
一人ひとりを大切に する環境づくり	○ 人権と多様な個性を尊重する児童生徒を育成する					目標は未達成であるが、児童生徒が安心して過ごせる居心地の良い学級経営ができた。また、多様な生活環境の中で困難をきたしている児童生徒や特性のある児童生徒に対し、ソフト・ハード面から丁寧な支援・指導を行うことができた。	A 達成できた	継続
	学校生活に満足している、学校生活に意欲のある児童生徒の割合[%]	全国平均以上(R4)	全国平均以上(R8)	全国平均以上(R6)	未達成			

第2次与謝野町総合計画・後期基本計画 評価・検証結果（成果指標・基本施策の目的の達成状況）

基本施策	基本施策の目的					基本施策の目的の達成状況	達成度	今後の方向性
	基本施策の成果指標	基準値	目標値	実績値	達成度			
生涯学習社会の実現と人権教育の推進	○ 生涯学習活動に参加する住民を増やす					目標は未達成だが、事業の統合、整理、移管を進め、質を落とすことなく、効率的に事業を継続していく道筋をつけることができた。	B おおむね達成できた	継続
	公民館講座などへの参加者数[人]	9,584 (R4)	18,000 (R8)	15,857 (R6)	88%			
	公民館の利用者数[人]	34,284 (R4)	75,000 (R8)	26,630 (R6)	36%			
生涯スポーツ社会の実現	○ 生涯スポーツ活動に参加する住民を増やす					スポーツ事業への参加者数は目標値を下回っているものの、施設利用者数は目標値を超えるなど、スポーツ活動を通じた交流を推進できた。	B おおむね達成できた	継続
	スポーツ事業への参加者数[人]	0 (R4)	2,300 (R8)	1,647 (R6)	72%			
	社会体育施設の利用者数[人]	39,574 (R4)	73,000 (R8)	81,695 (R6)	112%			
文化財の継承と活用	○ 文化財を次世代へ継承する意識を醸成する ○ 文化財を活用した地域づくりを増やす					ちりめん街道で活躍した人達の人物伝や食の地域習俗について学校・地域への出前事業を目標回数以上実施し、地域の歴史文化を次世代へ継承する意識醸成につなげられた。また、関係団体・関係課と連携して、旧尾藤家住宅重要文化財指定記念事業を実施するなど文化財を活用した地域づくりを進めることができた。	A 達成できた	継続
	地域文化財に関する講座などの実施回数[回]	1 (R4)	2 (R8)	10 (R6)	500%			

第2次与謝野町総合計画・後期基本計画 評価・検証結果（成果指標・基本施策の目的の達成状況）

分野6 環境・暮らし 美しくて住みやすい安心安全なまち

基本施策	基本施策の目的					基本施策の目的の達成状況	達成度	今後の方向性
	基本施策の成果指標	基準値	目標値	実績値	達成度			
地域からはじめる地球にやさしい環境づくり	○ 脱炭素社会実現・自然環境保全・再資源化につながる取組を増やす					R6年度に実施した家電買換事業において、試算では330tの温室効果ガス削減を達成しており、目標達成に向けて進展していると推察される。 ※基本施策の成果指標は2年遅れでの発表	B おおむね達成できた	継続
	温室効果ガス排出量 [t-CO2]	129,137 (R4)	77,482 (R8)	未発表 (R6)	—			
安心安全に暮らせる地域づくり	○ 暮らしの安心安全につながる取組を増やす					すべての施策の中で最も満足度は高く、防災・防犯、耐震化治山治水対策など多面的に展開する安心安全に関する取組に対し一定の評価は得られているものの、基準値からは下降している。	B おおむね達成できた	継続
	安心安全に暮らせると感じる住民の割合 [%]	34.9 (R4)	40.0 (R8)	28.3 (R7)	70%			
快適で暮らしやすい生活環境づくり	○ 住みやすい生活環境があると感じる住民を増やす					すべての施策の中で3番目に満足度は高く、住環境やインフラ整備に関する取組に対し一定の評価は得られているものの、基準値からは下降している。	B おおむね達成できた	継続
	快適で暮らしやすいと感じる住民の割合 [%]	27.1 (R4)	33.3 (R8)	22.0 (R7)	66%			

第2次与謝野町総合計画・後期基本計画 評価・検証結果（成果指標・基本施策の目的の達成状況）

分野7 地域協働・行財政運営 住民が主人公となるまち

基本施策	基本施策の目的					基本施策の目的の達成状況	達成度	今後の方向性
	基本施策の成果指標	基準値	目標値	実績値	達成度			
多様な主体による協働のまちづくりの推進	○ 地域で自治活動を行う人財を増やす ○ 主体的に地域の課題解決に取り組む自立した地域づくり活動を増やす					自治活動の新たな担い手確保に苦慮されているが、自治活動の維持はできている。また、地域の課題解決に主体的に取り組む活動が増えており、目標達成に向けて進展が見られる。	B おおむね達成できた	継続
	地域づくり支援補助金活用団体数 [団体]	27 (R4)	30 (R8)	29 (R6)	97%			
みんなが互いに認め合う風土づくり	○ 多様性を理解する住民を増やす					R7年度人権意識調査では「人権意識が10年前と比べて高くなっている」「人権が尊重された豊かな社会になっている」の割合が32.3%であること、また多様性を尊重し合う共生社会づくりを推進するための委員会を設置し議論を進めており、目標に近づく見込み。	B おおむね達成できた	拡充
	互いに認め合い助け合うまちづくりができていると感じる住民の割合 [%]	20.7 (R4)	33.3 (R8)	10.1 (R7)	30%			

第2次与謝野町総合計画・後期基本計画 評価・検証結果（成果指標・基本施策の目的の達成状況）

基本施策	基本施策の目的					基本施策の目的の達成状況	達成度	今後の方向性
	基本施策の成果指標	基準値	目標値	実績値	達成度			
未来を見据えた行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時代に適応した効率的・効果的な行政サービスを増やす ○ 健全で持続可能な財政運営を継続する 					R6年度に策定したDX推進計画に基づく取組がこれから本格化する中で目標に近づく見込み。一方、財政基本施策の成果指標は改善傾向にあり、目標は達成できる見込みとなっている。	B おおむね達成できた	継続
	未来を見据えた行財政運営ができていると感じる住民の割合[%]	12.3 (R4)	25.0 (R8)	7.8 (R7)	31%			
	債務償還可能年数[年]	— (R4)	7.5 (R8)	6.3 (R6)	84%			
見える・聞こえる・言えるまちづくり	○ まちづくりへの関心を高め、行動する住民を増やす					様々な媒体を通じて、広報や広聴の機会を増やしているが、基準値からは横ばいとなっている。	B おおむね達成できた	継続
	まちづくりに関わったことのある住民の割合[%]	65.7 (R4)	70.0 (R8)	60.0% (R7)	85%			